

【会議録】

主 題 令和6年度 第2回つくばみらい市地域公共交通会議

- 日 時：令和7年1月20日（月） 午後2時～午後3時15分
- 場 所：つくばみらい市役所伊奈庁舎 2階 会議室1・2
- 出席委員：秋山義継会長、廣瀬貢司委員、芳賀義明委員、小川一成委員、服部 透委員、小菅達也委員、山野井周一委員、八木岡道孝委員、荒井栄司委員、島崎邦雄委員、上田芳弘委員、前島一也委員、笠川輝章委員、神達隆樹委員、大久保益雄委員、細谷知英委員 以上 16名
- 欠席委員：古谷隆夫副会長、富山和之委員、古賀重徳委員、橋本弘行委員、鹿内秀樹委員、飯島宣昭委員、豊島美智子委員 以上 7名
- 事務局：都市計画課 藤倉課長補佐、島田主査、岩上主事
- 傍 聴 人：1名

●次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 会長あいさつ
- 4 議題
 - 協議事項
 - (1) 令和6年度地域内フィーダー系統確保維持事業の事業評価について
 - (2) 常総市コミュニティバス「JOYBUS」再編（案）について
 - 報告事項
 - (1) デマンド乗合タクシー インターネット予約状況について
 - (2) 病院バスについて
- 5 その他
- 6 閉会

●会議要旨

議題

協議事項

- (1) 令和6年度地域内フィーダー系統確保維持事業の事業評価について
令和6年度地域内フィーダー系統確保維持事業の事業評価について説明し、承認された。
- (2) 常総市コミュニティバス「JOYBUS」再編（案）について
常総市コミュニティバス「JOYBUS」再編（案）について説明し、承認された。

報告事項

- (1) デマンド乗合タクシー インターネット予約状況について
デマンド乗合タクシー インターネット予約状況について報告した。
- (2) 病院バスについて
病院バスの今後の運行形態を検討していくことについて報告した。

●会議録

- 1 開会（午後2時）
- 2 委嘱状交付

新しく委員になられた方々に委嘱状を交付した。

3 会長あいさつ

4 議題

協議事項

- (1) 令和6年度地域内フィーダー系統確保維持事業の事業評価について
令和6年度地域内フィーダー系統確保維持事業の事業評価について説明し、承認された。

【質疑等】

委員意見：補助金の額はいくぐらいなのか。

事務局：昨年11月末で交付金申請を行ったところである。確定通知が出ていない状態であるので確定ではないが、申請段階では400万円強となっている。

委員意見：フィーダー補助に関して事務局からご説明いただいたが、今後の全体的な流れについて説明させていただく。令和5年10月から令和6年9月までの計画期間の中で、どのようにしてデマンド乗合タクシーが運行されたか、定性的、定量的な評価を記入していただくこととなっている。この評価を1月31日までに関東運輸局交通政策課に提出していただいたうえで、2月に開かれる第三者委員会にて評価される。その評価をもって補助金の交付決定及び額の確定となる。特に支障がなければ、先程の申請の額になると思われる。

資料によると収支率は13.41%ということだが、国で把握している範囲だと、高いところで30～40%、低いところだと5%というところもある。12、13%は平均的であると推察される。ただ、収支率を上げていかないと補助対象外となる可能性もありうるので、今後も収支率を上げていく取組を実施していただければと思う。

会長：補助金に頼るだけではなく、やはり移動手段の確保にはそれなりの負担が必要だということを認識しなければならない。そういったことを理解して運用していただければと思う。

- (2) 常総市コミュニティバス「JOYBUS」再編（案）について
常総市コミュニティバス「JOYBUS」再編（案）について説明し、承認された。

【質疑等】なし

報告事項

- (1) デマンド乗合タクシー インターネット予約状況について
デマンド乗合タクシー インターネット予約状況について報告した。

【質疑等】なし

- (2) 病院バスについて
病院バスの今後の運行形態を検討していくことについて報告した。

【質疑等】

委員意見：先程、コミュニティバスを5台運行していると説明をいただいたが、年間いくらかかっているのか。

事務局：現在コミュニティバスは5台で通年運行している。

令和6年度の予算では86,639,000円計上している。

収入は、令和5年度実績で8,375,136円となっている。

委員意見：利用者の混み具合はどのような状況か。

事務局：通学時間帯と日中の時間帯で大きく差がでている。伊奈高校生が通学に利用できる便があるが、これについては定員に近い人数が乗車している。しかし、日中の時間帯だとほぼ空になっているルート、便もある。

委員意見：利用者はやはりドアツードアを求めている。雨の日などにバス停まで歩いてバスを利用するという気には中々なれない。なので、朝夕の時間帯はバスを投入してもそれ以外の時間帯は別の交通手段の充実を図るというのも1つの方法だと思う。また、路線バスがあるのだから、それを廃線につながらないようにしていかなければならない。コミュニティバスの時刻表を見させていただいたが、充実しているように思える。コミュニティバスが充実すればするほど路線バスを圧迫することに繋がる。まずは路線バスを使う。そうしなければ行政の負担ばかりが増えてしまう。困窮者には支援をし、負担能力がある方にはしっかり負担していただかなければいけない。

会長：路線バスは利益が出なければいずれ廃線になってしまう。利用者を増やす取組をしていかなければならない。それでも路線バスでカバーできない部分をコミュニティバスでフォローする。これが本来のあるべき形である。

また、委員のご発言にもあったとおり、利用者はマイカーを使って生活していた世代である。ドアツードアという利便性の高い交通手段を求めるが、やはりそれだけの費用負担をしなければならない。中にはバスやタクシーなどを全て行政サービスでやるべきだ、との声もあるが、いくら財源があっても足りない。ましてや少子高齢化の時代である。このような考え方を見直していかなければならない。

委員意見：茨城県では救急車を要請した方のうち、搬送の結果緊急性が認められなかった方からは選定療養費を徴収することとなった。これは全国で初である。また、シアトルでは救急の電話をとるのがドクターであり、緊急性の有無をその場で判断する仕組みをとっている。そこで緊急性が認められない場合には救急車を手配しないとのことである。世界的にもそういう流れであり、行政が全てのサービスを保障するという考えを改めなければならない。そういった視点も含めて検討していただきたい。

委員意見：利用者が少なくなったから路線バスに切り替える、という考え方は疑問がある。もちろん手段としては考えられるが、検討にあたっては整理が必要だと思う。

委員意見：資料の中に課題として、タクシーの運転手、台数不足が挙げられているが、運転手になりえる人はいると思っている。ただ2種免許というハードルが高い。1種免許でドライバーになれるライドシェアを解禁したのであれば、2種免許取得のハードルを下げてでもいいのではないかと考えている。

委員意見：全体的な話をさせていただくと、よく枝葉に例えられるが、まずは路線バスやコミュニティバスなどの枝があって、そこから葉っぱとなるドアツードアのデマンド乗合タクシーがあるというのが基本的な考えとなってくる。それでも交通空白地がある場合にはライドシェアなどの手法がある。つくばみらい市においてはこれから交通網の調整を図っていく段階だと思っているので、ライドシェアは時期尚早であると考えている。持続可能な交通網の維持には、各交通モードの損益バランスを見ていかなければいけない。それをきちんと整理してどの交通モードを残して、どのように葉っぱを広げていくか、ライドシェアや定額タクシーとかを組み合わせしていくことを検討することが重要になってくる。そういった点が各自治体の皆様が苦慮されているところだと感じている。ライドシェアという考え方自体は昭和の頃からあって、先程申し上げたように葉っぱの部分で空白地域になってしまっている場合にはライドシェアを走らせるといったことも可能である。バス会社、タクシー会社だけでなく、公共ライドシェアといった自治体主体的な事業もあるので、そういったところも検討されてはいいかなと思う。

会 長：委員からもありましたとおり、地域によって交通資源は様々で、それぞれの特性を活かして組み合わせることが重要である。

また、やはり利用者はより利便性の高い交通手段を求めるものである。お金をかければ最適なものはつくれるが、全国的に人口も縮小している状況のなかそれを行政だけが負担するというのは不可能である。利用者も十分な負担をする必要があるということを理解しなければならない。

5 その他

市議会より公共交通の取組に対して提言があり、提言の内容および検討・取組を実施する旨を事務局より報告。

6 閉会（午後 3 時 15 分）

●配布資料

【資料 1】令和 6 年度地域内フィーダー系統確保維持事業の事業評価について

【資料 2】常総市コミュニティバス「JOYBUS」再編（案）について

【資料 3】デマンド乗合タクシー インターネット予約状況について

【資料 4】病院バスについて